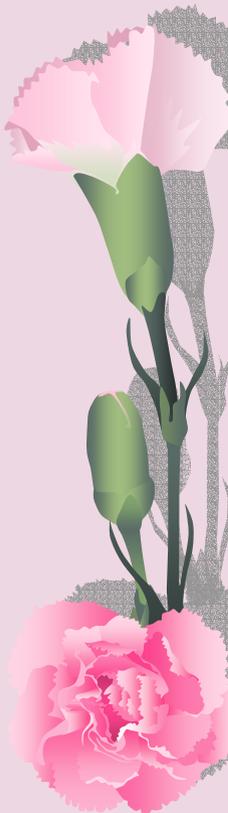


キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末



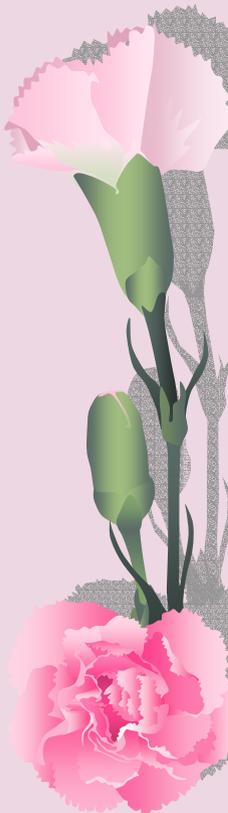
第二部 啓示論

- 3章 神の普遍的啓示
- 4章 神の特別啓示
- 5章 啓示の保存：靈感
- 6章 神のことばの信頼性：無誤性
- 7章 神のことばの力：権威



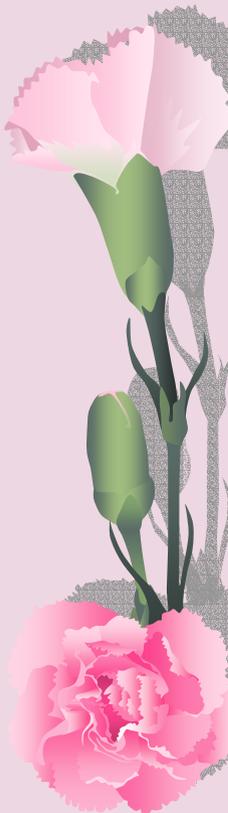
第4章 神の特別啓示

1. 特別啓示の定義と必要性
2. 特別啓示の様式
 1. 特別啓示の人格的性質
 2. 特別啓示の人間的性質
 3. 特別啓示の類比的性質
3. 特別啓示の方法
 1. 歴史的出来事
 2. 神の語りかけ
 3. 受肉
4. 特別啓示: 命題的か人格的か?
5. 啓示としての聖書



1. 特別啓示の定義と必要性

1. 語義と概念
2. 生来の制限と道徳的制限
3. 知識の拡張ではなく、選択的
4. 罪深さに対して、治癒的
5. 理解力の減少に対して、治療的
6. 二つの啓示：調和的・補完的



2. 特別啓示の様式

1. 特別啓示の人格的性質

1. 「わたしはある。」
2. ユークリッドの公理のようではなく
3. 宇宙論の精査、伝記の詳述でなく



2. 特別啓示の様式

2. 特別啓示の人間の性質

1. 人間の範疇において
2. 特別に創造された言語なのか？
3. 光輪をもつイエス像？
4. 大部分は自然な出来事の形式で



2. 特別啓示の様式

3. 特別啓示の類比的性質

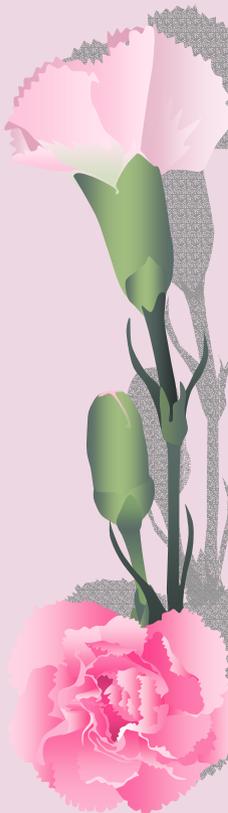
1. 「走る」: 単一の意味と相違
2. 軍の工兵隊による作業
3. 質的に同じ、しかし程度において差
4. 神は両側を知っておられる



3. 特別啓示の方法

1. 歴史的出来事

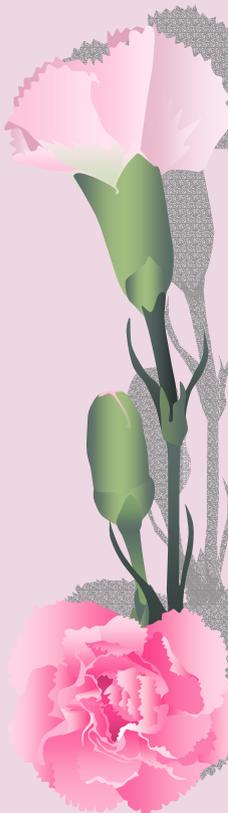
1. 一連の神的出来事
2. 奇跡的介入と日常的介入



3. 特別啓示の方法

2. 神の語りかけ

1. 自身からではなく、神からのもの
2. 言語 = 仲介機能
3. 語りかけの幾つかの形態
4. 洞察・意見ではなく、啓示された解釈



3. 特別啓示の方法

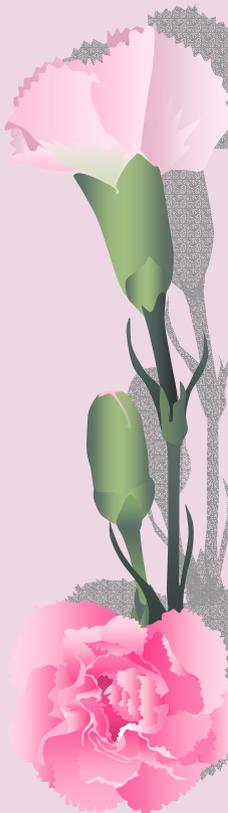
3. 受肉

1. 直接に現臨された
2. 神の行為の頂点
3. 神の肖像がそこに
4. 行為としての啓示と言葉としての啓示



4. 特別啓示： 命題的か人格的か？

1. 新正統主義によれば
2. 信仰が依拠しうる基盤
3. 信頼に値する対象
4. 神学それ自身のうちにある問題
5. 結びつきが正しく説明されず



5. 啓示としての聖書

1. 命題 保存 文書化
2. 経過・出来事 - 結果・生産物も
3. 啓示の性質の問題 = 靈感
4. 漸進的の意味
5. 人格的臨在と情報としての真理



ICIインフォメーション

- ❁ この講義はテープとMDで録音されており、必要な方にお分かちしています。関心のある方はご連絡ください。

